

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人環境とエネルギー

事業名	地中熱で実現する環境未来都市セミナー
枠の種類 (分野指定・ネーミング 事業の別)	ネーミング事業
分野	環境保全
①事業の目的・ この事業で取り 組んだ課題	<p>環境負荷低減を実現し、安全で安心できる街づくりにつながる様々なエネルギーの活用方法や、その周辺にある魅力的な技術の紹介をすることで、未来に安心して託すことのできる街づくりとエネルギーの地産地消について紹介していく。</p> <p>また、普及啓発だけでなく現在実証している施設の見学などを行うことで、新技術の開発をしている最前線の技術者とのマッチングや連携の輪を広げてゆく効果も期待している。</p>
②課題を解決す るため、取り組ん だ個々の事業	<ol style="list-style-type: none"> 公開セミナー実施 <ul style="list-style-type: none"> 9/29 第1回セミナー「地中熱と地下水環境」 11/18 第2回セミナー「ヒートアイランド現象と私たちの生活」 1/29 第3回セミナー「地中熱利用と地下水環境」 2/13 第4回セミナー「地下水を利用する新しい自然エネルギーの開発」 現地視察会 <ul style="list-style-type: none"> 10/27 「最新！次世代型植物工場見学ツアー」 11/25 「革新的施設園芸実証ハウス竣工式および特別講演会」 展示会 <ul style="list-style-type: none"> 11/7 「コラボ埼玉 2014」出展 1/28, 29 彩の国ビジネスアリーナ出展 未利用熱エネルギー活用教育活動への協賛 <ul style="list-style-type: none"> 11/8 スターリングテクノラリー（日本工業大学）に、環境とエネルギー賞創設し表彰（大学生1名）した。
③個々の事業の 内容・実施結果	<ol style="list-style-type: none"> 公開セミナー <ul style="list-style-type: none"> (1) 第1回セミナー「地中熱と地下水環境」 9月29日（月）15:00～17:00 新都心ビジネス交流プラザにて実施（来場者数：25名） 講師

①福宮健司（特定非営利活動法人環境とエネルギー理事長）

②菅野孝治氏（ICC㈱代表取締役・国際経営学修士（MBA））

パネラー ①、②の講師に加えて

③根岸基治氏（地盤環境エンジニアリング㈱会長）

④濱元栄起氏（埼玉県環境科学国際センター土壌・地下水・地盤担当主任）

(2) 第2回セミナー「ヒートアイランド現象と私たちの生活」

11月18日（火）15:00～17:00

㊦ 新都心ビジネス交流プラザにて実施（来場者数：17名）

講師

①福宮健司（特定非営利活動法人環境とエネルギー理事長）

②藤新太郎氏（立正大学地球環境科学部環境システム学科教授）

(3) 第3回セミナー「地中熱利用と地下水環境」

2015年1月29日（木）14:30～17:00

㊦ 埼玉大学工学部建設工学科1号館にて実施（来場者数：21名）

講師

①小松登志子（埼玉大学理工学研究科教授）

②大西純一（埼玉大学理工学研究科教授）

(4) 第4回セミナー「地下水を利用する新しい自然エネルギーの開発」

2015年2月13日（金）18:00～20:00

埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ実施（来場者数：19名）

講師

①藤縄克之（信州大学教授）

2. 現地視察会

(1) 「最新！次世代型植物工場見学ツアー」

10月27日（月）13:00～15:00

㈱グランパ横浜農場の円形植物工場を視察。（参加者数：14名）

(2) 「革新的施設園芸実証ハウス竣工式および特別講演会」

11月25日（火）13:00～17:00

長野県安曇野市三郷サラダ市前実証ハウス（参加者数4名）

3. 展示

(1) 「コラボ埼玉2014」出展

11月7日（金）～9日（日）10:00～18:00（9日は16:00まで）

さいたまスーパーアリーナで実施。

来場者数：「コラボさいたま2014」来場者総数32,000人（主催者発表）

広報：関係先に電子情報、開催案内を配布した。

取組：ポスター展示、資料配布、来場者への紹介・質疑対応。関係先が開発した環境に優しい酵素洗剤を用いた消臭洗浄液の展示を実施した。

(2) 彩の国ビジネスアリーナ出展

2015年1月28日(木) 10:00~18:00

29日(金) 10:00~17:00

4. 未利用熱エネルギー活用教育活動への協賛

11/8 第19回スターリングテクノラリー(主催:スターリングテクノラリー技術会、会場:日本工業大学)を共催。自作スターリングサイクル機器の性能とアイデアを競う競技会で、青少年の工学に対する興味・関心の喚起とスターリング機器関連技術の発展・向上を目的としている。参加者は全国小中高校生・大学生及び一般から約200チーム、500名余。実行委員会(大学、研究機関、高専、高校、企業等代表46名)の中心となっている埼玉大学との連携を通じて、当特定非営利活動法人環境とエネルギー賞を創設し表彰(ものづくり大学学生1名)した。

○事業の実施結果

時期	
6月	6/23 実行委員会(第1回)
7月	7/25 実行委員会(第2回)
8月	第1回セミナー他準備
9月	9/29 第1回セミナー「地中熱と地下水環境」開催
10月	10/27「最新!次世代型植物工場見学ツアー」(株)グランパ(横浜)円形植物工場現地視察会 実施
11月	(1)11/7~9 コラボ埼玉出展(さいたまスーパーアリーナ) (2)11/8 スターリングテクノラリー(日本工業大学)共催、環境とエネルギー賞創設(1名)表彰した。 (3)11/18 第2回セミナー「ヒートアイランド現象と私たちの生活」開催 (4)11/25「革新的施設園芸実証ハウス竣工式および特別講演会」視察参加
12月	(1)12/15 実行委員会(第3回)
1月	(1)1/28~29 彩の国ビジネスアリーナ出展 (2)1/29 第3回セミナー「地中熱と土中環境~埼玉大学地圏環境研究施設見学会」開催
2月	(1)2/13 第4回セミナー「地下水を利用する新しい自然エネルギーの開発」開催。 (2)事業終了・最終報告書取りまとめ

	<p>○広報実績について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4回のセミナー開催について、その都度、埼玉県庁記者クラブにプレスリリースした。 2. 環境新聞に開催案内、実施記事などが記載された。 3. 埼玉大学産学官連携協議会植物工場研究会に共催、(公財)埼玉県産業振興公社と(公財)さいたま市産業創造財団の後援を得た。環境新聞案内掲載、案内チラシ印刷配布と共に、電子メールで関係先300人程に案内した。 4. 関係機関を通じて、市町村商工会へ案内した。
<p>④個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開セミナー 合計4回実施、各分野の専門家を講師にお招きし、ご自身の最新の研究成果を中心に内外の研究動向などを紹介戴いた。環境とエネルギーに関心の高い方の参加により、情報の共有、新たな交流の機会になった。地中熱への関心が高まっており、その活用も広まってきている。地中環境への影響については未知の部分が多いことがこのセミナーを通して認識され、今後、環境との調和を図りながら活用することの重要性が確認された。 反省点は、参加者は各回20名前後で当初目標の100名の1/5程度であったことである。専門的な最新の研究成果を一般の方にも分かり易く話して戴くように企画実施したが、セミナー表題や内容が専門的な印象が強かったために、一般参加者が少なかったと考えられる。今回の企画は、一般の方への啓発的セミナーと専門関係者にも役立つ専門的情報の両方を盛り込んでおり、今後は、両者を区分けすることも課題としていく。 2. 現地視察会 最新の植物工場、周年栽培施設に関して調査ができ、今後、地中熱利用の可能性について多くの知見が得られた。 3. 展示紹介 埼玉県主催の2回の展示会で、地中熱利用についての活動について紹介し、多くの来場者に関心を持ってもらえた。 4. 未利用熱エネルギー活用教育活動への協賛 スターリングエンジンは、高効率のエンジンとして注目されており、これをエネルギーに関する学生教育素材として活用している「スターリングエンジンテクノラリー」に協賛し、環境とエネルギー賞を創設授与した。 環境とエネルギーに関心をもつ学生の教育に貢献するものと期待する。
<p>⑤費用の工夫</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各事業を効果的に実施するよう工夫し、実務は大部分NPO環境とエネルギー会員(個人及び企業)の活動で実施し、当初計画よりも費用を圧縮して実施できた。

<p>⑥地域社会への還元について</p>	<p>1. 公開セミナーは講演要旨集を作成し、関係者に配布、今後も関心ある方に紹介し活用を図っていく。</p> <p>2. 地中熱利用の事例紹介、情報発信を今後も継続し、地域社会で環境とエネルギーへの関心が高まるよう努める。</p>
<p>⑦今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<p>1. 地中熱利用に関して、幅広い分野の専門家を招いて、公開セミナーを実施したこと、特に、大気への影響や地中環境への影響についての研究成果なども紹介したことは、他ではまだ少ない活動である。</p> <p>2. 埼玉県では、「埼玉県次世代住宅産業プロジェクト推進事業」を推進しており、地中熱利用と環境への影響などの研究は、このプロジェクトにも貢献できるようにしたいと考えている。</p>
<p>⑧事業の実施体制</p>	<p>○事業の実施について</p> <p>①総括責任者 NPO 環境とエネルギー代表理事 福宮健司</p> <p>②連絡責任者 NPO 環境とエネルギー事務局長 東海林義和</p> <p>③現場責任者 NPO 環境とエネルギー理事 伊藤修司</p> <p>④経理担当者 NPO 環境とエネルギー経理部長 伊藤修司</p> <p>⑤広報担当者 NPO 環境とエネルギー代表理事 東海林義和</p>
<p>⑨来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<p>1. 公開セミナーは継続し、環境とエネルギーに関して広く情報を収集し、市民への情報発信も継続する。</p> <p>2. 地中熱利用の冷暖房や農業ハウス、植物工場などへの応用を引き続き検討していく。</p> <p>2. これらの活動を通じて、関係者の情報交換と連携の輪を広げていく。</p>

事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人環境とエネルギー

1 収入の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
県助成希望額	500,000	500,000	0	
自己資金	470,000	278,886	△191,114	
事業実施による収入等	38,000	0	△38,000	
その他	0	0	0	
合計	1,008,000	778,886	△229,114	

2 支出の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
会場費	180,000	31,080	△148,920	4回のセミナーは無料会場を活用、展示会参加費をその他に計上変更した。
通信運搬費	30,000	5,055	△24,945	
旅費交通費	120,000	47,116	△72,884	NPO 会員の旅費は各機関で負担し費用を抑えた。
消耗品費	30,000	5,407	△24,593	予算計上した印刷費等は自社経費で充当した。
備品費	0	0	0	
委託費	100,000	40,608	△59,392	外部委託を予定していた広報デザイン印刷費を手造で実施した。

謝金	240,000	193,220	△46,780	
人件費	180,000	333,200	153,200	事業企画実施のため当初予定より増加した。
その他	128,000	123,200	△4,800	会場費に予算計上した展示参加費をこの費目に計上した。
合 計	1,008,000	778,886	△229,114	